

平成23年度 学校関係者評価報告

1 実施日時 平成23年12月1日（木）

2 参加者

学校側	増田 樹郎 校長	白井 康司 副校長
	稲留 雄一 教頭	吉野 薫 主幹教諭
	清水美智男 教務主任	石原 清史 校務主任
	安藤 眞樹 研究主任	

学校関係者

地域代表	三嶋 勉 様	深津 浩 様
	奥瀬 勇作 様	牧野 典子 様
父母教師会代表	松井洋一郎 様	

3 協議内容

改善項目①スクールカウンセラーやアイリスパートナーの運用の充実	
目標値	設問 6 スクールカウンセラーやアイリスパートナーを活用し、より深く子どものことをとらえ、成長に役立てようとしている。 教師 B 72.7% → A 85% 保護者 B 81.9% → 児童 C 68.6% → A 80%
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・通信や掲示を活用し、アイリスパートナーの活動を全校に周知する。 ・アイリスパートナーについては、これまでの取り組みを生かし、ソーシャルスキルトレーニングなど、子どもたちへのはたらきかけのあり方を探りたい。 ・担任とスクールカウンセラー、アイリスパートナーとの連携を充実させるにあたり、報告用紙の活用や情報の電子化（セキュリティの保証を含め）による共有、相談室の環境整備などを進め、効果的な運用を図る。 ・特別支援教育推進委員会を中心に、大学の関係機関や地域の診療・相談機関とも連携を模索し、より効果的な運用を協議・実践する。
改善項目②基礎的な知識や技能の習得と情報教育の取り組み改善	
目標値	設問 8 基礎的な知識・技能の定着を図っている。 教師 C 63.6% → A 80% 保護者 C 67.9% → A 80% 児童 A 92.5%
	設問 11 コンピュータを使っての学習の充実 教師 D 27.3% → C 50% 保護者 C 67.2% → B 75%

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・あおいタイムの充実及び、授業でも基礎的な知識・技能の習得を図る時間を確保し、成果を児童自身や保護者が確認できる機会を設ける。 ・全国学力状況調査の結果を保護者会などで伝える。 ・自分の必要な情報を効率的に得たり、共有したり、発信したりする情報教育のあり方を教師が共通理解し、日々の学習指導と関連させながら指導する。 ・授業参観等でコンピュータを活用する授業を指定し、公開する。 																																				
改善項目③子どもたちの基本的生活習慣を育む																																					
目標値	<p>設問 15 あいさつ，時間，物を大切にすることなどの基本的生活習慣の定着</p> <table border="0"> <tr> <td>教師</td> <td>D</td> <td>45.5%</td> <td>→</td> <td>B</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>B</td> <td>73.2%</td> <td>→</td> <td>A</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>A</td> <td>92.8%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>設問 16 清掃指導</p> <table border="0"> <tr> <td>教師</td> <td>A</td> <td>81.8%</td> <td>→</td> <td>A</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>C</td> <td>54.0%</td> <td>→</td> <td>B</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>A</td> <td>91.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	教師	D	45.5%	→	B	70%	保護者	B	73.2%	→	A	80%	児童	A	92.8%				教師	A	81.8%	→	A	85%	保護者	C	54.0%	→	B	70%	児童	A	91.0%			
教師	D	45.5%	→	B	70%																																
保護者	B	73.2%	→	A	80%																																
児童	A	92.8%																																			
教師	A	81.8%	→	A	85%																																
保護者	C	54.0%	→	B	70%																																
児童	A	91.0%																																			
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や児童会活動で、基本的生活習慣や規範意識について考える場をもち、その意味や必要性を子どもの中に育んでいく。 ・附ぞくっ子タイムなどで、よりよい指導のあり方を互いに学び合う。 ・帰りの会などで、一日の行動を振り返ったり、よい行いを賞賛したりする場をもち、一人一人がめあてをもって行動できるようにする。 ・PTAと協力しながら、生活習慣や規範意識について啓発活動を行うことと、清掃活動に積極的に取り組む態度を培う。 ・登下校指導を行い、あいさつの励行や登下校時におけるバスマナーの改善など、生活のなかでルールやマナーについて考える機会をとらえ、学級活動や通学班会の場で継続的に指導していく。 																																				

4 学校関係者を評価を受けての具体的な方策

【改善項目①についての具体案】

<ul style="list-style-type: none"> ・通信や掲示を使って、アイリスパートナーの活動を全校により知ってもらえるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> →アイリス通信の発行によって、学年を越え、身近に相談できる環境づくりを行っている。 →6年生で、アイリスパートナーによる、ソーシャルスキルトレーニングの授業を行った。(昨年度) →アイリスパートナーとの関係を近くするために、アイリスを探せ(名刺交換)を行った。(昨年度) ・担任、スクールカウンセラー、アイリスパートナー、特別支援教育コーディネーター(主幹)の連携を充実させ、情報を共有しながら、子ども理解を深める時間を確保する。 <ul style="list-style-type: none"> →活動後の振り返りの時間の設定。
--

- 教育相談活動の報告を特別支援教育コーディネーターが受け、学校として行える支援を検討している。
- アイリスパートナーからの報告用紙をもとに、1日の振り返りを行い、継続的な学級へのかかわり方を探っていく。
- ・大学の心理学教室とも連携し、特別支援教育推進委員会において、それぞれの活動を振り返りながら、より効果的な運用を協議し実践する。(7月19日実施予定)

【改善項目②についての具体案】

- ・あおいタイムの充実のために教育課程の見直しを行った。
 - 朝の職員打合せ会を夕打ちに実施。
- ・授業において基礎的な知識・技能を定着させる時間を確保するとともに、その成果を児童自身が確認できる機会を設ける。
- ・学校公開日や授業参観において、基礎的な知識・技能を定着させる授業を公開する。
- ・全国学力状況調査でよい結果が出ていることを保護者会の場で説明する。
- ・教師自身が授業における情報活用の視点を持ち、毎日の授業と結びつけて指導にあたる。
- ・授業参観等でコンピュータを活用する授業を公開する。

【改善項目③についての具体案】

- ・学級や児童会活動で、基本的な生活習慣や規範意識について考える場をもち、その意味や必要性に対する意識を子どものなかに育てていく。
- ・教師・保護者と子どもの意識のずれを改善する。子どもの目標値の設定を高くし、今以上に自分たちの生活を見直していく意識をもたせていく。特に、ものを大切に
する意識や使ったものを片付ける意識の向上をめざし、委員会活動を中心に見回り
活動を充実したり、清掃後の反省会の実施など自分たちの活動を振り返る場を位置
づけていく。
- ・P T Aと協力しながら、生活習慣や規範意識について啓発活動を行うことと、清掃
活動に積極的に取り組む態度を培う。
 - 親子清掃の実施
 - 環境委員会主催のペア清掃の実施(6月下旬～7月上旬 1学期においては1回)
- ・全校集会の場で、生活指導部会を中心に、通学マナーや危険回避について考える場
を設定する。
 - 6月の月曜集会で実施。
- ・これまでの通学班会のあり方を検討し、バスマナーなど、子どもがルールやマナー
について考える機会を設定していく。
 - 2学期の通学班会において、バス会社等に依頼し、バスマナーについて学ぶ機会
を設定する。(計画中)
- ・P T A通安部による登校指導での情報を学校で共有し、児童の登校指導に生かす。